

特集「知識と情報の共有」の編集にあたって

岡田 謙^{†1} 桑名 栄^{†2} 中小路 久美代^{†3}
星 徹^{†4} 宗 森 純^{†5}

80年代後半から本格的なグループウェアの研究は、近年のインターネットインフラストラクチャの急速な普及を梃子に実社会への適用に重点がおかれた研究が進み実用化へ目覚ましい進展を遂げている。本学会に92年に発足したグループウェア研究会は、当初より400名を超える会員、毎年4~5回の研究会とシンポジウムを開催しグループウェア研究の発展に貢献してきた。また、グループウェアの両輪となっているネットワーク技術とヒューマンインタフェース技術の研究との連携強化を図るために、97年よりマルチメディア通信と分散処理研究会、モバイルコンピューティング研究会と共催で「マルチメディア、分散、協調とモバイル(DICOMO)シンポジウム」を開始し、99年から「インタラクションシンポジウム」の共催に加わった。DICOMOは本年から分散システム/インターネット運用技術研究会、高度交通システム研究会が共催に加わり、発表も131件におよび盛り上がりを見せている。また、本年3月の「インタラクション2000」は300名以上の参加者を集めている。

本特集号は、これらの研究会、シンポジウムで発表された研究を論文として完成させ迅速に刊行することを目指したもので、一昨年の「分散協調支援とその応用」特集、昨年の「コラボレーション支援」特集を受

け継いだものである。昨年まではゲストエディタ制により企画・編集したが、今回、論文誌編集委員会の編集委員5名が企画・編集するというのが大きな特徴である。論文募集に対して20件の投稿があった。編集委員がメタレビューとなり、各論文に対して所属組織の異なる2名の適切な査読者を編集委員会で決定した。論文の優れた点を積極的に評価する、迅速に刊行する、という方針のもと、査読者とメタレビューの厳正な査読により13件を採録とした。また、密で迅速な対応により、論文募集締切からわずか7ヶ月弱で当初予定どおりの10月号としての刊行となった。

本特集号には、仮想社会、ワークフローシステム、インターネットテレフォニー、メールベースシステム、情報共有など、幅広い分野の論文が投稿された。グループウェアの実用化にとめない、評価に重点がおかれた論文が増加していることと、グループウェア単独システムに加え、情報システムへのグループウェア技術の偏在化が進んで、多様なシステムが提案されてきていることである。最後に本特集号を刊行するにあたり、多数の優れた論文を投稿していただいた方々、短時間で査読をするためにご尽力いただいた査読者各位に深く感謝する。なお、本特集は、論文誌編集委員会応用グループの上記の編集委員の責任で編集を行った。

†1 慶応義塾大学

†2 NTT

†3 株式会社SRA/奈良先端科学技術大学院大学

†4 株式会社日立製作所

†5 和歌山大学